

総務文教常任委員会所管事務調査報告書

第1 調査事項

図書館の運営状況等について

第2 調査期日及び場所

平成22年11月30日 総合研修センター委員会室・したしみ図書館、土幌小学校
平成23年 2月 2日 委員会室

第3 参加者

委員長 富田 忠雄
副委員長 出村 寛
委員 大西 米明 和田 鶴三 服部 悦朗 細井 文次
議長 佐古 準一
教育委員会 教育長 神野 光男 参事 笠谷 直樹 教育課長 柳谷 善弘
学校教育担当主査 吉田 誠 社会教育担当主査 杉山 みちる
社会教育主任 相澤 理枝子
土幌小学校 校長 家田 輝 教頭 濱口 重則
事務局 議会事務局長 植田 廣幸 総務係長 瀬口 豊子

第4 調査の経過と概要

図書館は、文化、教育、情報の拠点として大きな役割を担っている。一方で、IT産業の普及や利用者ニーズの多様化など、社会変化に対応した図書館活動が求められている。当委員会は、図書館の運営状況等の説明を受けた後、したしみ図書館及び学校図書館として土幌小学校を視察した。

1 町図書館事業

本町の図書館は、平成6年に総合研修センター内にオープンし今年で17年目を迎える。この間、読書活動の普及・振興を図るとともに、利用者の要望に対応できるよう図書館資料の充実、管内・道内の図書館と連携したサービス向上に努めている。また、町民にとって身近で親しまれる図書館となるよう各種事業を展開している。

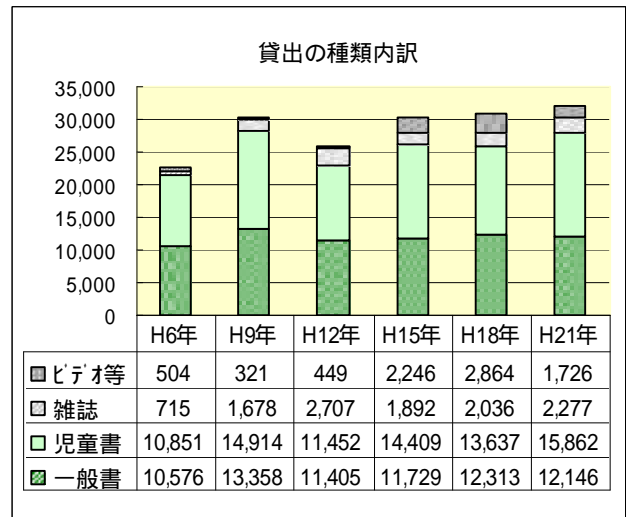
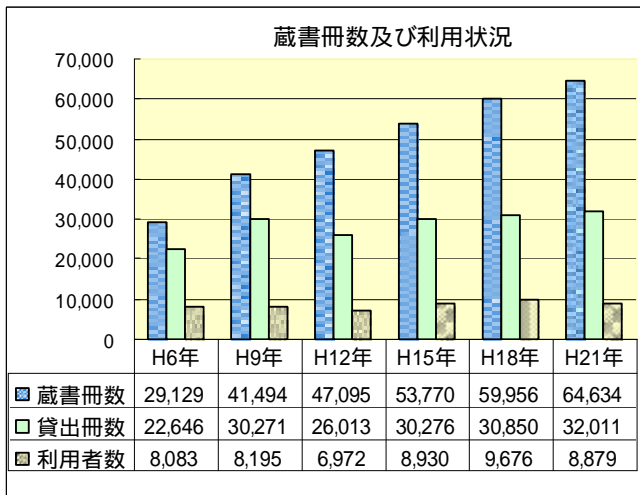
(1) したしみ図書館

平成21年度の利用状況は、入館者数1万6,764人で前年比691人の減となったが、これはインフルエンザ等の影響もあって落ち込んだものと思われる。一方、貸出冊数は3万2,011冊(町民一人あたり年間4.8冊)で、前年比1,289冊の増となっており、その内児童図書が1万5,862冊(前年比664冊増)と全体の約5割を占めている。

蔵書冊数は6万4,634冊(前年比1,527冊の増)で、新刊の案内は毎月発行の町広報紙及び総研内に掲示するなどして周知している。

その他、読書推進に向けて小学校向けの図書館だよりを発行し各学校で全児童へ配布と、リクエストサービスによる本の購入または他の図書館からの借用など、連携した取り組みを進めている。返却については休館時も24時間外から利用できる返却ポストを総研に設けている。

開館以降の図書館利用状況等の推移(3年毎)は表の通りである。



(2) ブックスタート事業

10か月の乳幼児等を対象に、絵本を通じて家族がふれあう機会を過ごしてもらうため、健診時に絵本2冊をプレゼントとしている。その際、児童書を読む会「あんぱんまん」、子育て支援センター等の協力も得ている。本事業の効果として、未就学児の登録及び利用冊数が増えている。

(3) 巡回図書

毎月1回、土幌小学校を除く7小学校に訪問し、60冊の本のほか、学校からの依頼に基づき授業内容に合わせた貸し出しも行っている。

(4) 子どもの読書活動推進計画(平成22年～26年)

平成22年3月、本町の子ども(乳幼児、小・中学生、高校生)たちがあらゆる機会と場所において、自主的に読書活動のできる環境を作るための推進計画を策定、その内容を町ホームページに掲載している。また、本計画を推進するため「子どもの読書活動推進委員会」を立ち上げ、読書活動の充実と継続に向けた取り組みを進めている。

- 計画基本目標
- ・子どもが読書に親しむ機会の提供と充実
 - ・子どもの読書環境の整備・充実
 - ・子どもの読書活動に関する理解と関心の普及

(5) その他の主な事業

夏休み図書館利用何回来たかなカード配布

図書館を知ってもらい足を運んでもらうため、各小学校を通して全児童にカードを配布。

絵本作家の読み聞かせ講演会

絵本作家自身による読み聞かせ等を通し、絵本や創作に対する興味、関心を深める。

リサイクル市

保存期限を過ぎた雑誌及び重複の寄贈図書等の無料配布。(一人1日 雑誌・書籍各5冊)

七夕短冊飾り、クリスマス展示

2 土幌小学校図書館

学校内外での読書利用を高め、本を読む習慣づくりと読み取る力が身につくことを目的に運営し、主に図書委員会児童と担当職員が中心となって図書の選考、購入、整理等を行っている。

平成22年度の蔵書冊数 2,765冊 うち購入及び寄贈冊数 193冊

(図書館図書標準冊数 7,000冊 達成率 39.5%)

*参考：学校図書館図書標準

平成5年、文部科学省が公立の義務教育諸学校図書館の整備を図る際の目標として、学級数を基本に蔵書冊数の標準を設定した。

第5 所 感

図書館は、文化・情報の拠点として、また、子どもの教育と人間形成を養う場として、その果たす役割は一層重要視されている。

平成6年に開館した「したしみ図書館」は、資料の充実と読書活動の普及、親しまれる図書館事業を展開している。特に乳幼児・児童等を対象としたブックスタート、絵本作家講演、土幌小学校を除く7小学校を訪問する巡回図書等の取り組みが、児童書利用の増に繋がっていると思われ、21年度は1万5,862冊と全体の約5割を占めるまでに至った。一方、一般図書の利用については開館以降、平均約1万2,000冊前後の横ばい状態が続いており、生涯学習の推進を図るためにも利用促進に向けた方策が求められている。例として、各地区やイベント時に出向く移動図書館の運行、高齢者等を対象にした本の宅配サービス、週1回の開館時間の延長、返却ポストの設置場所拡大、情報化時代に即応した蔵書データベース化によるインターネット検索と予約システムの構築なども検討する必要がある。

さらには、図書館が総研入口から奥まっけて目立たないことから、わかりやすい案内板の設置と将来的には図書館専用出入り口の整備も望まれるところである。その他、町民の意見を取り入れた新刊の選考、専門蔵書の紹介、必要に応じた読書相談や読むべき本について助言といった視点を変えた取り組みも望まれる。

しかしながら、限られた町の財政状況と人員体制の中での整備は厳しいことから、利用者ニーズを把握しながら、ボランティアや町民参画による協力体制をつくっていくことが必要と考える。

学校図書については土幌小学校を調査したが、図書達成率が39.5%と蔵書整備が進まない現状が見受けられた。学校が取り組む朝の読書を始め種々の読書活動をより充実していくためには、蔵書数の確保が求められる。一考として、土幌小学校も含めた巡回図書の実施や各学校単位でしたしみ図書館を有効活用するなど、連携を図った取り組みも検討されたい。

近年、生活環境の変化等から子どもたちの読書離れ、活字離れが指摘されている。教育委員会では昨年3月「子どもの読書活動推進計画」を策定し、子どもが自主的に読書活動を行う環境づくりを進めるため学校、家庭、地域等と連携した協力体制を築いていくとしていた。今後、本計画に基づいた読書活動の充実が具体的に図られ、子どもが読書習慣と読解力を身に付け、自らが情報を判断し活用する能力を育て、それが学力向上に繋がっていくことを期待したい。